

■□ 報告Ⅴ

コープみらい社会活動財団の 奨学金給付事業について

永井 伸二郎（コープみらい副理事長・一般財団法人コープみらい社会活動財団理事長）



私は、この6月の総代会を受けて、コープみらいの副理事長とコープみらい財団の2代目の理事長になりました、永井と申します。よろしくお願いいたします。私からは、コープみらい財団が行っている、高校生向けの奨学金給付事業についてご報告をさせていただきたいと思います。

まずコープみらいとみらい財団について、簡単にご紹介させていただきます。コープみらいは、いまから6年前の2013年に、当時のコープとうきょう、ちばコープ、さいたまコープという首都圏の3つの生協が1つになって、つくりました。組合員数は、2018年度末で347万世帯でしたが、今週で350万を超えるという非常に大きな生協です。

総事業高は3909億で、宅配2600億、店舗1100億の事業と併せて、電気小売事業や福祉事業などを行なっています。

もともと合併をするときの目的であった、経営基盤を強化していくことと、大きくなり社会的な役割をしっかりと果たしていくことに向けて組合員と話し合いをしながら、生協をつくってきたという経過があります。

そのことを受けて、2015年6月にコープみらい社会活動財団を立ち上げました。この年のコープみらいの総代会で、いわゆる財団の設立と、剰余金処分として8億円を財団の準備資金として積み立てることを決め、加えて、基本的に毎年3000万円を

限度に事業資金を寄付するかたちで財団運営が行われています。

事業内容は、暮らしと地域への助成ということで、地域の団体・NPOへの支援を行うことを中心にしていたのですが、あらためて財団として次の事業をどうするかということで、格差や子どもの貧困の問題を考えた上で、子どもに焦点を当てた事業、なかでも給付型の奨学金事業をしっかりと立ち上げようということで話し合いを進めてきました。

コープみらいの理念は「CO-OP ともに はぐくむ くらしと未来」、ビジョンは「食卓を笑顔に、地域を豊かに、誰からも頼られる生協へ。」で、これはコープみらいをはじめとしたコープデリグループの共通の理念とビジョンです。これを実現することと、冒頭に若林先生からもありましたように、SDGsをどのように具体化するのかということのなかでの取り組みです。

奨学金制度導入にあたって、奨学金問題の第一人者である中京大学の大内裕和先生をお招きして、組合員に向けて格差と貧困問題等いろんな講演会を開きました。やはり「目からウロコ」というか、知らないことばかりで、いまの大学生の半分以上が奨学金を受けていること、日本の奨学金は返済を伴って、しかもほとんどが有利子だということ、奨学金の認識に大きな世代間ギャップがあること（私もそろそろ60歳になりますが、昔は返済の利子がない育英

会の奨学金であつたり、そもそも借りている人は2割ぐらいいしかなかったのですが、いまは平均300万以上の借入れをして、1000万を超える借金をして社会に出ていく人もいますし、(返済をしないと年利5%の延滞金が発生します)そういうことも含めていろいろと勉強をさせていただきました。

そのことが若者の貧困化にもつながり、また、将来の返済への不安からアルバイト漬けの学生も出てくるなど、いろいろな社会問題とつながっていくことを勉強したわけですね。

いまは、大学生の2人に1人が奨学金を利用して、毎月約17,000円を14年以上かけて返済しています。奨学金の返済については、正規職員として社会に出た人でも3割以上が「苦しい」、非正規の人では半分以上が「苦しい」と答えています。奨学金破産も現実問題となっていますし、保証人になって親子共倒れということについても、いろいろと報道されているところです。

返済の滞納も増えています。利子から返済されるので、元本がなかなか減らないことも多いです。返済が「結婚」「出産」にも影響する、という報道もあります。とりわけ「一人親家庭」の貧困率が非常に高いことから、コープみらい社会活動財団として、コープみらいエリアの高校生を対象に、主に一人親家庭を対象とした奨学金の給付事業を、2018年度の新入生よりスタートしました。

「コープみらい奨学金」の給付の枠組みについては、少数の奨学生に多くの奨学金を給付するのではなく、多くの奨学生に給付するということで、月額1万円を3年間、卒業までしっかりと応援します。もちろん、返済不要の奨学金で、少しでも高校生活に

専念できるような環境をつくることをめざしています。

奨学金給付金の財源については、生協の「たすけあいの活動」として、組合員から「奨学金応援サポーター募金」を募り、奨学金を運営しています。募金は奨学金給付以外には使わないで、宣伝広報や運営事務費は財団本体から出すことをお知らせして、サポーターを集めています。

それと、「サポーター通信」を年2回、発行しています。奨学生の近況報告や、奨学金を受けた保護者の方からの近況報告などをいただきますので、それをお伝えすることと、応援サポーターにいただいた声もしっかりお返しすることで、募金だけではない「つながり」をつくっていく取り組みを進めています。

なぜ高校生なのかと申しますと、大学生の可能性も検討しましたが、公立、私立、自宅、借家等様々な形態があり審査や運用が複雑で難易度が高いことと、高校生は既存の奨学金制度があまりないということで、高校を中退せず、しっかりと大学に進学できる後押しをしたいことも含めて、高校生を対象にしました。

年間12万円ですので、通学定期券の購入など、月額1万円です。いろいろなことができるのではないかと考えて行っています。

一人親家庭については、コープみらいのエリアである埼玉・千葉・東京の母子家庭の率は比較的低いのですが、世帯総数では非常に多いので、対象者は非常に多いということがわかっています。

また、公益財団法人コープさっぽろ社会福祉基金が、北海道内の一人親家庭に対して奨学金制度を30年間きちっと実施されているので、これをモデルにしながら組み立てをしてきました。

宅配では、奨学金サポーター募金は1口

100 円単位で、宅配の引き落とし機能を最大限利用して、1 回きりではなく、毎月 1 回、100 円から最高 9,900 円まで募金できるかたちになっています。9,900 円募金されている方もけっこうおられる状況です。

店舗でも、引き落としの申込書を置くとともに、今年 3 月からはレジで単発で募金ができるようにしていますので、これも併せて、きちんとサポーター募金を集めていくかたちになります。

高校生からは、本当に多くの声をいただいています。3 カ月に 1 度、年 4 回、振り込みますが、それと併せて、高校生の奨学生からの声と保護者からの声を多くいただいています。

奨学金事業を進める上で、当然、生協の総代会にかけていきますが、総代の皆さんから本当に温かい声をいただいて、毎回の総代会でも取り組みへの共感の声を多数いただいています。

学習会の感想アンケートでも、「社会の動きを見ていきたい」という声や「あらためていろいろな気づきを得た」という声も寄せられています。

奨学金応援サポーターの声は、本当にたくさんあります。東のように声が来るので、それを読んでいるだけで心が温かくなります。たとえば、「私自身、奨学金を借りて、なんとか社会に出られました。これからは少しでも皆さんの役に立ちたいです」というような声をたくさんいただいています。

高校生からも「奨学金をもらえて、安心して高校生活が送れます」というような声をたくさんいただいていますので、こんな声をいろんなかたちで広げていければと思っています。

生協ですので、組合員さんからいろいろな声をいただきます。どんな選考基準なのかということも含めてご意見をいただきま

す。経済状況を 1 番のウエイトにして、学業についても状況を出していただくことも含めてやっています。

2018 年度にスタートして、初年度の申請数は 387 人でした。選考委員会（有識理事の方も含めて構成）で 110 人の方の採用を決めています。まだ奨学金の応援募金が始まってそれほど日が経っていませんので、いったん 110 名の採用としました。

総合評価点数に占める収入評価点数は約 7 割にして、学業ではなく、収入などで本当に困っている人にきちんと給付しようということでやっています。「平均収入 143.9 万円」としていますが、この「収入」は年収から授業料や住宅費・通学定期代を引いた金額で、「年収」は給料に児童手当・遺族年金等を加えた額です。

今年もすでに選考をしており、申請は 320 名で、112 名の採用となりました。今回も平均収入が厳しい家庭が多かったという状況です。

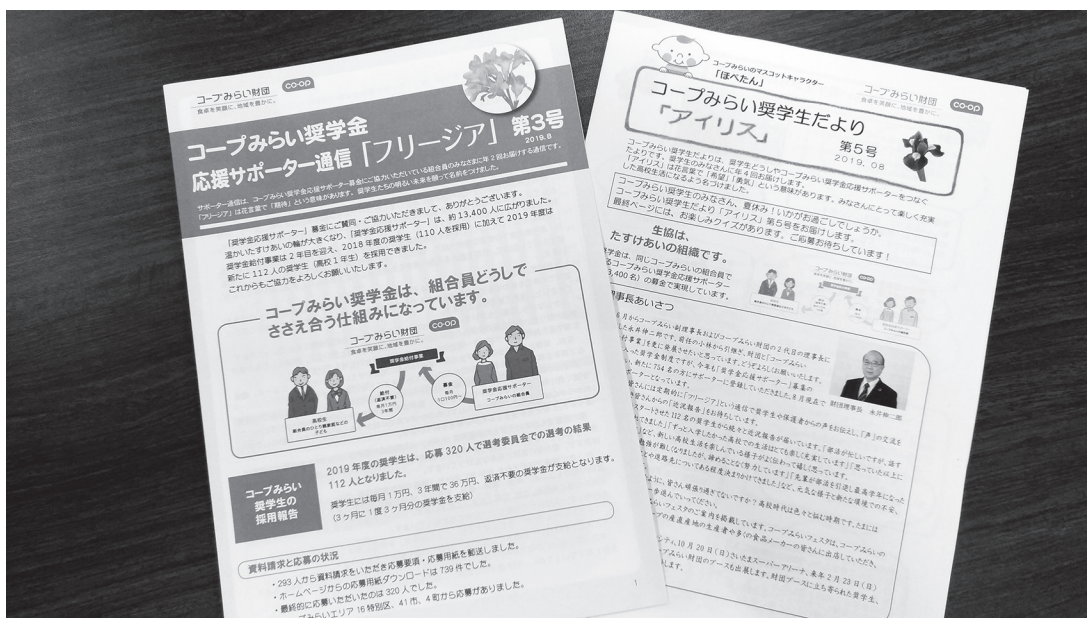
じつは匿名で 500 万円を寄付してくださる方が現れるなど、大口の寄付も含めて、少しずつですが採用人数を増やせるようになってきています。

サポーターの登録状況は、4 月現在で 12,706 人となっています。平均口数が 3.81 口ですので、毎月平均 480 万円ぐらいの寄付をいただいていることになります。

2018 年度は、募金総額が 5,000 万を超える規模になりました。2017 年度途中分を合わせると 6,000 万円ですので、いまの状況でいけば 160 人ぐらいまでは採用できるのではないかと考えていますが、300 名を超える応募がありますので、まだまだサポーターを広げていく必要があると思っています。そのために広報誌として奨学生日より「アイリス」と奨学生や保護者の声を集めた「フリージア」を発行しております。

助け合いの気持ちの広がりを見て、そのことが生協の組合員だけでなく、いろいろなところに広がっていく可能性を、あらためて感じています。

“誰一人取り残さない”というSDGsの目標がありますので、この目標に沿って、さらにこの奨学金の事業を広げていくと同時に、財団としていろいろな活動を進めていければと考えています。以上で報告を終わります。



左：応援サポーター通信「フリージア」 右：奨学生だより「アイリス」